

2 - 5 2007年1月9日北海道網走沖の地震 Off Abashiri earthquake on Jan. 9, 2007.

防災科学技術研究所

National Research Institute for Earth Science and Disaster Prevention

2007年1月9日午前5時12分に網走沖でマグニチュード(Mw)4.7の地震が発生し、北海道北見市常呂町で震度3の揺れが観測された。防災科学技術研究所 Hi-net によって決められた本震および余震の震源位置と F-net により決められたこの地震の発震機構解、および気象庁によって決められた1950年以降にこの地域で発生した50km以浅の地震の震源分布を第1図に示した。

この地震は東西両側に南北走向の活断層をもつ北見大和堆りの南端付近に位置し、深さは1.7kmとごく浅く、発震機構解は西北西-東南東方向に圧縮軸をもつ逆断層型であった。この地域の地震活動は少ないものの、1956年3月6日には今回の地震とほぼ同じ場所でマグニチュード6.3の地震が発生し常呂町で軽微な被害が生じたほか、網走市で40cmの津波が観測されている^{2,3)}。

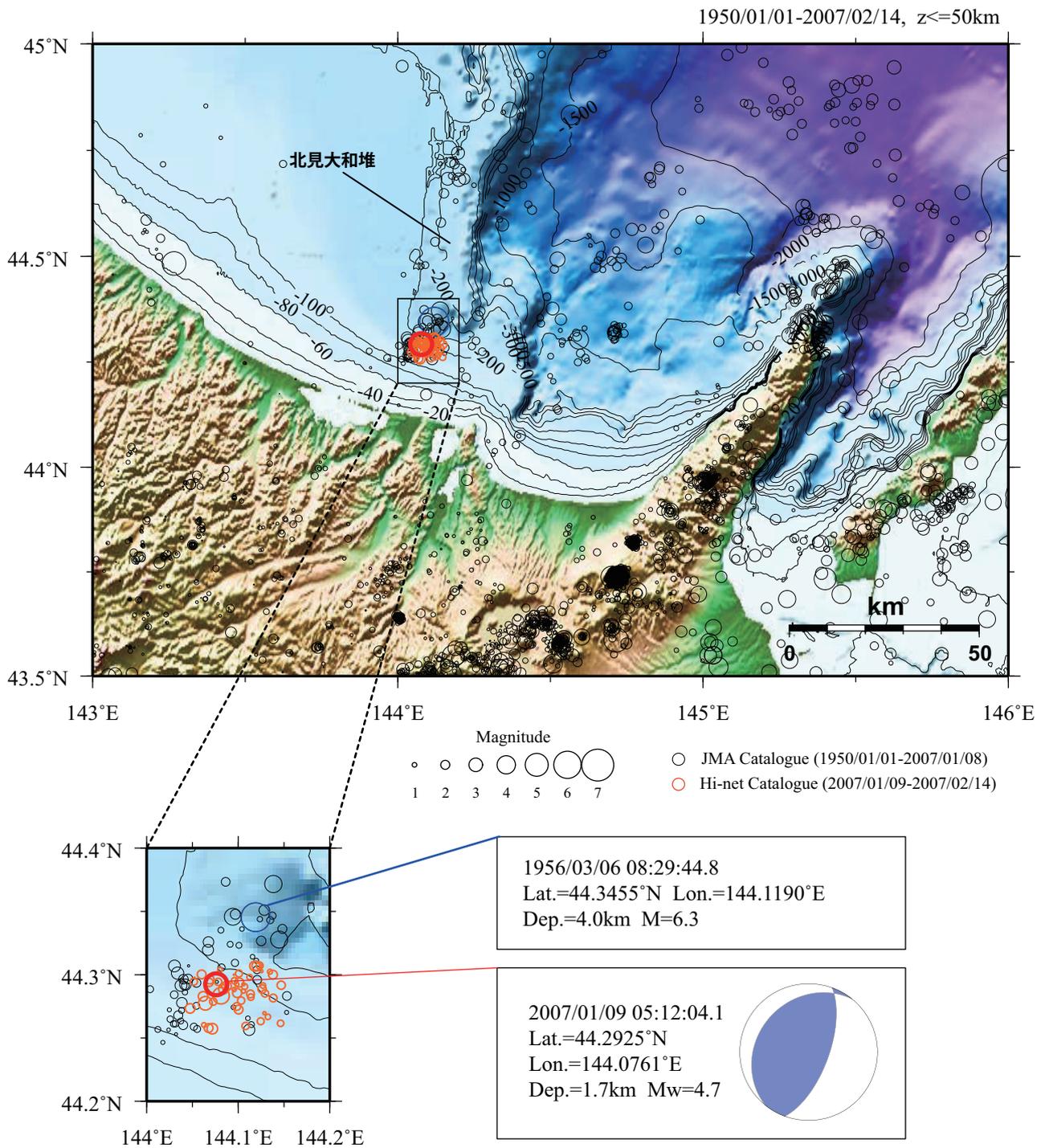
(前田拓人)

謝辞

気象庁の震源分布データおよびは数値地図250mメッシュ標高(国土地理院)および500mメッシュ水深データ(日本海洋データセンター)を利用させていただきました。記して感謝いたします。

参考文献

- 1) 活断層研究会, 新編日本の活断層, 東京大学出版会, 1991.
- 2) 渡辺英夫, 日本被害津波総覧, 東京大学出版会, 1998.
- 3) 宇佐美龍夫, 日本被害津波総覧, 東京大学出版会, 2003.



第1図 網走沖周辺の深さ50km以浅の地震の震央分布. 黒丸は1950年1月1日から2007年1月8日までの気象庁による震央分布を, 赤丸は防災科研Hi-netによる本震の震源位置を, 橙丸は防災科研Hi-netにより決められた2007年2月14日までに発生した余震の震央分布をそれぞれ示す. 青丸は1956年3月6日に発生したM6.3の地震の震央位置である. 下部に図中矩形部分の拡大図および防災科研F-netによる震源メカニズム解を示す.

fig.1 Epicenter map of shallow earthquake of $z < 50\text{ km}$. Black circles show epicenter locations of shallow earthquake determined by JMA occurred from Jan. 1, 1950 to Jan. 8, 2007, a red circle shows hypocenter of main shock, orange circles show aftershock distribution till Feb. 04, 2007 by Hi-net, respectively. A blue circle indicates an earthquake of M6.3, Mar. 6, 1956. Enlarged view of epicenter distribution around the main shock (rectangular region) and a source mechanism of main shock determined by F-net are shown below.